

地域性を生かした資料館

伊藤 安男

現代地域は過去の累積であり、今日の地域をよりよく理解するためにはその土地の成り立ちを知ることである。その意味において県下各地の町村に博物館相当施設、例えば歴史民俗資料館、郷土資料館などが設立されつつあることは、利用者のひとりとして喜んでいる。

これらの施設については、それぞれの館関係者はそれなりに管理運営に日夜腐心されていることは熟知しています。職業がら内外のこれらの施設を見学し関係する機会の多い者の一人として、日頃から感じていることを二・三提言してみたい。その第一は自然史部門の展示が殆んどないことである。これについては設立の趣旨や予算、施設、スタッフなど様々の制約条件のあることはよく知っている。しかし地域史というものは歴史だけがひとり歩きしたのではなく、その自然との深いかかわりのなかで醸成されてきたはずである。この傾向はこの地方だけではなく多くの日本人の史観によるものである。それは歴史のドラマだけに目をうばわれて、そのドラマの展開した舞台(ステージ)を思考する発想に乏しい国民性によるものであろう。そしてこのような面をカバーするためにも、いかに小さな施設であろうとも今後は博物館学芸員はおくように、前向きに努力していただくことを心より願っている。

次は地域の特質を具現する資料館であってほしい。他県ではあるが京都府の巨椋池干拓資料館と千葉県立大利根博物館に例をとり、そのあり方について考えてみたい。京都市南郊の巨椋

池は湖盆の名残りをとどめる周囲16キロの沼沢地であったが、干拓土地改良されて美田となり現在は都市化によりその大半は住宅団地や工場となった。この滄桑の変ともいべき地域変化の過程を後世に残すために、土地改良区が独自に設立した資料館である。館内には巨椋池の生成からその後の景観変遷、かつての農具、漁具などが展示されており近くの団地の人々もよく親子連れで見学にきている。この池の干拓よりさらに大規模であったのが輪中地域のものであり、わが国の三大土地改良事業の一つに数えられている。しかしどういわけかこの種の資料館は見当たらない。とくに有名であった大垣南部地区はこの土地改良事業を記念して資料館ならぬ観音堂を建立して今日にいたっている。

佐原市にある千葉県立大利根博物館は、いうならば利根川総合資料館ともいべきもので、利根川の学際研究機関であり利根川流域研究なる研究誌も定期発刊している。これに類するものに中国の鄭州にある黄河博覧館がある。これはわが国の博物館以上にすぐれ黄河博物館である。木曾三川流域は利根川以上に流域の人々と深くかかわってきた河川である。県下にも大利根博物館のような河川博物館があってもよいと思う。最近に開設された木曾三川公園の治水記念館は、博物館相当施設にほど遠いリクリエーション的施設であって学究的な研究機関でもない。また公園には野外博物館的構想から水屋が建てられたが、これは移築ではなく全くの新築であり、しかも現実の水屋建築を復原していな

いコピーであるところに問題がある。この点では韓国の民俗村はきわめてアカデミックな野外博物館であり、わが国でもこれに類するものは未だない。この民俗村を見学するたびにわが国の文化行政とは考えざるをえない。

河川博物館に相当するものは、治水記念館と同時に木曾川百年記念事業として対岸の愛知県立田村に落成した木曾川文庫がある。これは木曾三川の資料とライブラリーをかねたものであ

るが建設省の管轄下にある。同類のものに淀川資料館、信濃川資料館があるが、役所の壁を取り除いて博物館法の適用をうけ博物館学芸員をおいて運営すれば、さらに立派な施設となると思うがこれは役所の機構を知らぬ素人の発想であろうか。

以上は傍観者の立場からの愚見であるが、お目八目とってお寛容いただきたい。

(花園大学文学部教授)

効果的な博物館利用の留意点

—— 引率者側からの提言 ——

宮 崎 惇

1. 博物館の目的や機能及び行事等を知っていること。「聞かぬは末代の恥」、遠慮なく尋ねよう。
2. 博物館での学習を実施するに先だち、博物館の担当者と事前打合わせを十分行う。
3. 学習内容を極力しぼること。例えば特別展示だけとか、縄文土器作りだけとか。
4. 学習の目的を各人によく把握させて入館させること。自分にあった学習を自分でするところであることをよく理解させておく。
5. 事前学習が大切であること。リーフレット等は前もってもらえることができる。また必要に応じ博物館員を事前学習に招聘してもよい。館園に到着してから集会室等で実施する方法もある。
6. 博物館は学習のために何度も訪れるところであることを十分熟知しておくこと。ただし博物館は学習面のほかに心を癒すような面の働きも兼ね揃えていることを忘れてはならない。
7. 展示内容等を引率者が熟知し、自ら現場指導に当るのが望ましいが、博物館には博物館教育の専門家がいるので、この協力方についても留意したい。展示の解説や指導を全部博物館の専門家にゆだねる方法もあるが、この場合は十分事前打合わせを行う必要がある。事後指導も大切である。特に質問のある場合、その対応を十分に考慮すべきである。
8. 博物館としても、学習の内容・方法、特にその効果について知る必要があるので、極力これに協力すること。アンケート用紙などにはできるだけ答えてあげるよう協力したい。
9. 展示室だけが博物館ではなく、博物館の働きをささえる人々がいること。また資料の調査研究・整理保管の仕事や場所等かくれた部門の存在についても留意して学習内容にくみ入れるとよい。
10. 誰でも博物館をよくするために協力ができることについての指導を忘れてはならない。一番の博物館との絆は自分の分身が博物館に收藏されていることである。たとえば寄贈した資料や貸した資料があるとか、自分たちの研究の一部が展示されている等々。資料の寄贈方法なども紹介するとよい。

(笠松中央公民館勤務)

大前美術館

〒501-51 郡上郡白鳥町白鳥 957-13

TEL (05758) 2-2133

JR長良川鉄道白鳥駅を降りて3分程駅前通りを歩くと大前美術館に着く。昭和63年7月、館主大前四郎兵衛氏が美術工芸関係資料のコレクションを一般公開しようとの美術館を開館された。館主の一代で収集された資料約200点が20畳程の展示室の中に紹介されている。刀剣類では「直江志津」の短刀、「兼元」の刀「濃州関住相模の守政常」の薙刀、その他刀装具類がある。古陶磁器類も多く、古瀬戸、古伊万里古唐津、古信楽、黒織部、志野等のつぼや茶碗類が目を引く。乾山、柿右衛門の角皿、茶器も展示してある。書画、文書類では建暦2年(1212)正月23日銘の「法然上人の起請文」。文化9年(1812)8月吉日銘の「谷文兆の絵巻物」。頼山陽の書、鉄斎の水墨画、その他南画類も多くある。古端溪の硯や、金時絵の硯箱、中国伝来の銅器類も多く展示してある。館主のコレクションを死蔵にしたいと、公開にふみ切られた資料一つ一つに歴史の深さと重みを感じられるものばかりである。

◦入館料 大人 300円

◦休館日なし ◦開館時間 希望に応じる



白鳥町歴史民俗資料館 白鳥町ふるさと生活博物館

〒501-51 郡上郡白鳥町長滝自然公園内

TEL (05758) 5-2663

JRバス長滝停留所より歩いて3分の地に資料館と生活博物館がある。近くに白山長滝神社、長滝寺、若宮修古館などもある。ここは白鳥町長滝歴史公園化整備事業の中核であり、一大文化ゾーンでもある。歴史民俗資料館は昭和59年11月開館した。6つのコーナーに分け考古、歴史資料を中心とした展示をしている。原始のコーナーでは尖頭器、石斧、縄文、弥生等町内で発掘された資料の紹介、古代・中・近世コーナーでは長滝寺とこれにつながる白山信仰に関する歴史、文化の紹介がなされている。11面観音の仏頭(平安期)、延暦寺政所下文、鎌倉期の舞楽面、長滝寺一山に保管されていた古文書など貴重な宝物、歴史資料がある。郡上藩金森騒動に関する全国的にも珍しい傘連判状などの紹介もある。生活博物館は昭和62年開館。白鳥町の人々の生活、農業、林業、養蚕、衣食住、冠婚葬祭など日常生活に直結するもの、地域の風俗に関するものなどを紹介している。触れてみて、動かしてみても、体験できるシステムや、館の2階に移築復元された家屋展示を取り入れたり、展示資料と写真パネルがわかりやすく結びついていることなど他の館にない展示を試みている。

入館料 大人 200円 小中生 100円

休館日 月曜日、祝祭日の翌日、12月29日～1月3日 但し12月～3月までは日、祝祭日、土曜の午後



調査研究

チョウジ (丁香)

Eugenia aromatica Kuntze の播種

内藤記念くすり博物館 研究員 逸見 誠三郎

チョウジ, *Eugenia aromatica* Kuntze (Myrtaceae フトモモ科)、Clove はコショウ、ニクズクと共に世界中で広く使われている代表的な香辛料である。日本での栽培は少なく、開花・結実する樹を保有している植物園は極く僅かである。

チョウジの播種の実際について Bogor, BARTLO で教えられ日本で温室での普通な方法と共に実施し得たので知見を報告する。

1. 果実

黒褐色に果皮が完熟した充実したものを使用する。播種前、果皮をナイフで剥ぎ果肉を傷つけないようきれいにむく。

2. 種子

果皮を取り去った完熟種子は黒褐色で緑色に近いものの小形のものは未熟である。

3. 播種

普通播種は、種子巾の2~3倍の覆土を常識とする。チョウジの場合は、播種のとき土に埋めることを全くしないで、種子の臍の部分を下にして立てて倒れない程度(種子の $\frac{1}{2}$ 程)土の中に差し込むだけとする。播種床の場合、普通3×3、又は3×5cm間隔とする。上記の方法で播種すれば、10日程で立てた種子から根が伸長して土中に入り、20日程で頂部



(撮影地：インドネシア) 種子。

(上になっている部分)が割れて開き始め、30~40日程で割れた部分から子葉が伸長して展開する。

(写真内矢印上：種子に臍があるのがわかる。写真内矢印下： $\frac{1}{2}$ 程土より頭を出している

若し他の普通植物と同じように土の中に埋め込むと土が種子の頭部を圧迫して子葉が種子の肉を抜けて伸びることができず、終には腐敗枯死する。播き床に立てずに横にして播くときは土の中に完全に埋め込まず $\frac{1}{2}$ は露出させるとよい。



チョウジ

1988年に、鉢播きしたチョウジは、立てて $\frac{1}{2}$ 土に差し込んだものは10日程で90%の発芽であったが、土中に埋めたものは1ヶ月でも発芽ゼロであった。知らずに普通法で土中に埋める播種をしたものも播種後20日間頃までに覆土を取り除けば種子が割れて子葉を展開する。

立てて土に差し込む播種の時、上下を取り異えて播くと根の伸長後、種子自らが実を反転させた後、頭を割り開いて子葉を伸展開する。

植物の播種法もさまざまであるが、ピーナツ程の種子を半分土に差し込む方法が最善な植物は他にあまり無く、チョウジのこの方法は園芸書に見られないようである。

発芽した苗は本葉4~5枚のとき7~10cmのポットに第一回移植、その後本葉20~25枚のとき20~25cmのポットに第2回移植をして定植まで育生する。

チョウジ栽培国インドネシアは湿度が高く平均75~85%で、栽培地は平地から海拔1000m近くまであり、1000mでは気温平均21℃位となる。高地は開花結実(チョウジの収穫は蕾)が悪く隔年に収穫となることが多い。

日本での試作は湿度管理に特に注意して栽培するのが良い。

美濃焼の歴史

岐阜県陶磁資料館

加藤 よね子

美濃焼とは、岐阜県の南東部で生産される焼きものです。

戦後「六古窯」という呼称が生まれ、中世より現代まで連綿として焼きものが受け継がれている窯で、備前・丹波・信楽・越前・瀬戸・常滑を日本の六大古窯と名付けられたが美濃はその中に入っていない。これは美濃の焼きものは桃山時代から始まったと考えられていたからでしょう。実際には西暦600年代の奈良時代に遡る事が昭和40年代に行われた古窯発掘調査により立証されました。

ここ美濃は良質な陶土と燃料と水と豊かな自然に恵まれて、資源・環境が備わり古くから窯業地として独自の発展をとげてきました。

須恵器は5世紀前半に朝鮮半島から大阪の陶邑(すえむら)で5世紀後半から6世紀にかけて全国に窯業地が広がり、愛知県では「猿投」^{さなげ}一帯で移動し、岐阜県では各務原を中心に美濃須恵窯に伝わり130基余が操業しました。美濃窯では7世紀頃始まったと言われ在地の需要をみたく程度であったと思われます。

平安時代後期には東海地方一円で美濃窯でも多治見の光ヶ丘や北丘で白瓷の生産が始まりました。灰釉を施した貴族、神社、寺などで用いられた上層階級の器でした。又青瓷と呼ばれる緑色の上ぐすりを使った密教法具として使われたものが焼かれました。

平安時代終り頃になると中国から青磁、白磁が輸入されるようになり、白瓷は売れゆきが悪くなり一般民衆むけとなり大量に生産されました。それに伴い粗雑で素朴なうわぐすりをかけないものになり、山の中で多く発見される事から山茶碗と呼ばれました。この時代までの窯は山と山のくぼみを利用し穴を掘って屋根を架設しただけの原始的な地下式窖窯でした。

この頃灰釉や鉄釉を施した古瀬戸系の器種も多様化したものが生産されました。

今から500年前室町時代後期になると地下式

窖窯には焰が立ち上る昇炎壁が設けられるようになります。その後窯はしだいに地上に築かれるようになり、山の頂上付近の傾斜地につくられるこの窯を美濃大窯と呼んでいます。

桃山時代になると志野・瀬戸黒・黄瀬戸など焼きものが最盛期を迎え、いわゆる後の織部焼を加えて桃山陶と呼ばれる最も華やかな展開をみせた日本独自の特徴をもった完成度の高い焼きものとして現代までその技法は受け継がれ、その作品は多く残されています。

17世紀になると九州唐津より加藤景延が連房式登窯を導入し茶懐石の器や、茶陶が多量に生産された。茶人古田織部好みの大胆な文様やデザインのいわゆる織部焼が完成しました。

黒織部・赤織部・志野織部などと呼ばれ多種多様な焼きものといえましょう。

江戸時代初め九州有田では磁器が完成し、京都では仁清や乾山という遠州好みに美濃焼がおされてしまいその影響を受け、華やかな時代の茶陶、懐石料理の器は少なくなり大衆向けの生活雑器に変わってゆき、目立って仏具が多くなりました。江戸時代終わりには徳利が多く江戸を中心に東日本全域に販売圏があったようです。

美濃の陶工達は昔から白いものを焼こうという意識があって努力を重ねた段階で生まれた太白焼、柳茶碗などを作り、やっと文化文政の頃磁器が完成するのは有田より200年後のことでした。

明治維新世の中が近代へと大きく変貌してゆく時代に、呉須という顔料を用いた青色で文様を描いた磁器が焼かれ、明治15年頃、摺絵染付、明治20年頃に銅版染付、明治30年頃には吹絵の技術による多治見市の歴史に残る西浦焼きがあり輸出品としても生産されました。

1000年以上にわたる歴史をもつ美濃焼きは新しい時代の息吹きの中でさらに発展を遂げようとしています。

長期展望に立った各館・園と 協会との在り方をさぐる

「会員研修会」についてのアンケート集計とまとめ

岐阜県博物館協会研修委員会

昭和63年度総会におきまして、従来の会員研修会は本年度から専門委員会組織になり、一層発展的な活動をする事になりました。

この会員研修会を計画するにあたり、今回、協会の長期展望に立った各館・園と協会との在り方をさぐるための実態調査を行い、それをふまえ、会員研修会を企画することになりました。

アンケート実施の方法につきましては、可能なかぎり研修委員が各館・園を訪問し、会員の生の声をお聞きするというにし、不都合な場合は、電話および郵送させていただきました。

研修委員会としまして、アンケートが実施できたことと同時に、この機会をとおして、会員の生の声が聞けたという点にも成果があったと思われまます。

アンケート実施にあたり、いろいろご協力下さいましてありがとうございました。

(アンケート実施期日：昭和63年7月～8月、

回収率：団体会員…71%、個人会員…28%)

○アンケートの内容と結果

1. 協会の活動全般について

- ・協会に入られた動機について

自主的…26, 進められて…21, なんとなくおつきあい…8, その他(職員になったから、情報交換、加入義務があると聞いて、周囲の館が入っているから)

- ・過去の総会、公開講座(セミナー)の参加

	1回	2回	3回	4回	5回以上
総会	4	5	4	0	8
講座	3	8	2	1	9

- ・協会に入って良かったこと
情報交換ができる 24, 見聞が広がる…2, 協会誌が入手できる…4, 親睦が深まる…8, 勉強になる…3, 文化振興が進む…2, 生きがいのなった…2, 県

博協の本質を理解…2

- ・協会に対する希望

より多くの情報…6, 各館の連絡…5, 公開講座の充実…3, 展示に対するアドバイス…2, 分科会の設置…2, 新しい活動…1, 中央および海外の情報…1, 施設と教委の調整…1

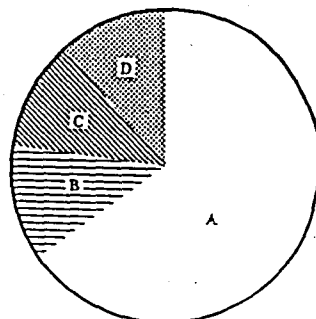
2. 研修会について

- ・会員研修会の存在を知っていますか。
知っている…67, 知らない…8
- ・会員研修会に参加したことがありますか
ある…33 ない…41
- ・過去に何回ありますか

	1回	2回	3回
60年度	5	3	1
61年度	10	3	2
62年度	10	3	4

- ・過去の研修会に参加できなかった理由

- A: 業務が忙しく、参加の余裕がない。
- B: 参加しても役に立たない。
- C: 予算的に参加できない
- D: その他



グラフ1

- ・今後の研修会に期待されること
各地で開催(巡回を含む)…10, 実務(展示・保存など)充実のためのもの…9, 気軽に参加できるもの…5, 現状維持…3, 内容の濃いもの…3, 各館相互の情報交換…2, 各館共通の問題を分析研究…2,
- ・本年度の研修会はどのような内容のことを希望されますか。

希望の研修場所

- ・県内博物館（持ち回りも含む）… 3 ,
- 交通機関の便のよいところ… 2 , 専門分野のバランスをとって… 2 , 事務局のあるところ… 2

希望の研修テーマ

A : 専門知識
の深化

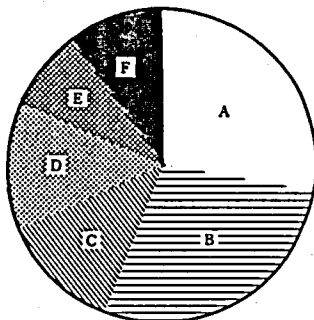
B : 展示につ
いて

C : 資料の保
存、管理

D : 解説・接
遇

E : 博物館の
役割、運営

F : 海外の博物館活動



グラフ 2

3. 各館の現状と課題について

・設立の目的

資料の展示公開… 14 , 地域の文化への
貢献… 11 , 失われてゆく民具・民家など
資料の保存… 11 , 博物館のあり方を追求
して

・あなたの館では特別展、企画展などを行っ
ておられますか。

行っている… 30 , 行っていない… 35

・いま、貴館の活動の中での課題・問題点等
で、協会としてお手伝いできること

各館の情報交換・協力… 7 , 展示方法等
の知識をお借りしたい… 6 , PR活動を希
望… 3

4. 協会誌「岐阜の博物館」に期待すること

各館の情報交換（特別展等）… 9 , 発行
回数の増加 , 資料保存・展示方法の知識と
掲載 , 博物館市民活動の紹介

・アンケートの結果をふまえて

協会に対する希望としては、種々の情報が得
られること、親睦をさらに一層深めることなど
が主でした。また、会員研修会の参加に対して
は、多忙であるため参加できないという意見が
多くありました。しかし、中には、参加しても

あまり役に立たないなどの意見もあり、研修会
の内容を高める必要性を痛感しました。研修内
容としては、展示・保存など専門知識を深める
ためのものが多く、その点を考慮して行きたい
と思います。

全体的にみて会員と協会との係わりでは、単
に“おつき合い”と“情報の入手”という感じ
はさけられず、今後、お互いに“地域の博物館
事業の一端を担う”という積極的な形が育って
くることが望まれます。その点、今回の意識調
査は、博物館事業が地域へさらに一層浸透する
きっかけとなるとともに、意識の判定基準の再
考を含め、今後も定期的に行ってゆく必要があ
ると思われます。また、アンケートの中で集約
が不充分なところは割愛させていただきました。

・アンケートの内容をふまえた本年度の会員研
修会の実施について。

アンケートの結果にもとづき、本年度の会員
研修会を11月、12月、2月に実施しました。この日
程の無理は、アンケートの実施・まとめに時間
がかかったためです。このことは、実施予定で
あった宿泊研修会の中止など、影響があったも
のと思われます。その点、来年度からは、公開
講座の実施日も考慮し、計画をたてる必要があ
ります。

・本年度の会員研修会の実施内容

第10回 11月11日(金) 参加者 19名

内容：展示資料のディスプレイ

アンケート集約結果について

博物館協会の歩み

会場：岐阜市歴史博物館

第11回 12月4日(日) 参加者 12名

内容：“大垣市を例とした地域博物館のあり
方”について、提案・研究協議を行っ
た。その後、広瀬鎮名古屋学院大学教
授による“生涯教育の場としての博物
館のあり方”の講演がありました。

会場：大垣市郷土館

第12回 2月15日(木) 参加者 15名

内容：白黒写真の現像と焼付

会場：岐阜県博物館

◎ 第39回公開講座報告

「美濃市の町並み」 内木 茂氏

「税のある町並み—今井家・小坂家を中心に—」

内木茂氏の解説による見学

とき H1. 2. 3. (金)

ところ 美濃市文化会館

本年度最後の第39回公開講座は、美濃市教育委員会と共催で、税のある美濃市で開催した。当日は、肌寒い日であったが、遠く高山市や岩村町からの参加も含めて43名の参加者があり、大変充実した講演と見学であった。

内木先生は次のように講演された。

美濃市は、江戸時代初期城下町として開かれ、後幕府と尾張藩の和紙（美濃紙）の集散地として栄え、また飛騨街道・郡上街道等の交通の要地として商人の町として発展してきた。税は、防火のために設けられたが、時代の推移とともに、「税があがる」ということばがあるように

財力の象徴となった。税が残ったのは、太平洋戦争後、美濃市が急速に発展することなく、また町の人もこの伝統ある町並みに誇りを持っているからである。これからもぜひとも残したい。

講演後、内木先生の案内で古い町並みを見学し、税の美しさ、変遷等の理解を深めた。さらに今井邸では水琴窟の澄んだ音色に耳を傾け、風雅を楽しんだ。また国の重要文化財小坂家住宅では、三本の税とむくり屋根の美しさ、邸宅の奥行きの深さに驚嘆し、あらためて税が富と権勢の象徴であることを実感した。



◎協会の運営にご尽力いただいた次のお二人が昭和63年度中にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

・藤田松太郎氏 昭和63年12月3日死去
(岐阜県博物館協会監事)

・熊沢輝雄氏 昭和63年8月18日死去
(岐阜県博物館協会理事)

◎ ガイドマップ

「岐阜県の博物館」発刊

機関紙委員会で岐阜県博物館加盟館・園の情報を収集し、編集してきましたガイドマップがいよいよ発刊の運びとなりました。3月現在の協会加盟館・園がちょうど100館です。県下各地の皆様、県外の皆様にもわかりやすく、気楽にご利用いただけるようなマップを心がけました。B2判、表裏カラー刷りで1部50円です。各館・園へ見本版を送付し注文を受け付けています。多くの人にPRをして下さい。マップについての詳しい問い合わせは事務局まで。

◎ 新入館・園紹介

- 日本大正村資料館
恵那郡明智町本町
- 伊自良村歴史民俗資料館
山県郡伊自良村大字掛字大岡 850-65
- 根尾村郷土資料館
本巣郡根尾村板所字上段 1063
- 大和町歴史民俗資料館
郡上郡大和町牧 911
- 本巣町歴史民俗資料館
本巣郡本巣町文殊 324
- 揖斐川町歴史民俗資料館
揖斐郡揖斐川町上南方 901-5

編集後記

・本年度最終号をお届けします。各号予定通り発行できたのも皆様のおかげです。機関紙委員全員の英知を結集し、ガイドマップが完成しました。マップを片手に各地の博物館等へ多くの皆様を訪れていただける平成元年度になってほしいと思います。